

1983.3

# 愛鳥教育<sup>NO.9</sup>

愛鳥教育研究会

# 愛鳥教育で校内暴力はなくなるか

(財)日本鳥類保護連盟

松田道生

「今、学校で」というドキュメントが新聞に連載されたところが、なつかしいと思うほど、最近の新聞に報道されている学校の現状は、かなしくなるばかりです。

この原因の一つには、今の教育が知識のつめこみばかりで、生命を大切にするような情操部分の教育活動が、欠如しているからだ、研究会の会合などでよく耳にします。

以前、子供たちの自殺が問題になったころ、奥秩父の小さな学校を訪れました。もちろん、愛鳥活動の指導をかねて見学にいったわけです。全校で20人位の分校で、全員で鳥にとりくんでいるのです。学校の裏庭で鳥のためにトウモロコシを栽培したり、学校の石垣に巣を作ったハクセキレイを観察しています。ちょうど私が訪ずれた時は、次の週にひかえた理科の発表会のために、練習をしているところでした。

残念ながら、この学校は、2年後に廃校になってしまいました。その時子供たちの見たジョウビタキの赤い胸と、校長先生がおっしゃった「この子供たちは、絶対に自殺しませんよ」といった言葉を今でもおぼえています。

そのころ愛鳥教育とは何なのか悩んでいた私は、ああ、これが愛鳥教育なんだなあ、目からウロコが落ちた思いがしたものです。

今、このように学校のことが問題になるにつけ、愛鳥教育の必要性をつくづく感じます。巣箱をかけたり、鳥にエサをやったりバードウォッチングをすることにより、校内暴力がいつかなくなるなんて、思っははいませませんが、少しは効果があるはずです。

悪い積みかさねが、今の学校の問題の根源になっているならば、少しずつの小さい良い積みかさねがあれば、今の学校の問題を解決できるはずです。

# NO. 9 愛鳥教育

1983. 3

## 目次

---

愛鳥教育で校内暴力はなくなるか	松田道生・2
国会に巣箱架け	4
愛鳥講座II・愛鳥活動の計画	下田澄子・6
愛鳥講座・資料編	10
愛鳥活動のヒント1	柴田敏隆・13
愛鳥資料の紹介	14
つばめの子	16
不忍池カモ観察会報告	18
4年目の会費のお願い	18
編集後記	18
第17回鳥獣保護実績発表大会記録	とじ込み

---

愛鳥教育 No. 9

昭和58年3月20日

編集人 松田道生  
発行人 田村活三

発行所 愛鳥教育研究会  
住所 〒150 東京都渋谷区宇田川町37-10  
渋谷レジデンシャルオフィス405  
(財)日本鳥類保護連盟内

電話 東京 03 (465) 8601  
郵便振替 東京 2-92041  
制作 かなえ書房

# 国会に巣箱かけ

国会に巣箱を架けては、という提案があったのは去年の11月でした。これは「鳥類保護議員懇話会」の代表・井出一太郎さんとメンバーの大村襄治さんとの間で話されたもので、元環境庁長官の鯨岡兵輔さんも賛同し、実行しようということになりました。

この懇話会は、10年前に発足し現在国会議員が超党派で300人も参加しています。今までの主な活動は、鳥獣保護のための国家予算の確保や、国際的な渡り鳥条約の締結推進、トキの保護など、国政の中で鳥を守る提案や活動をしています。また事務局は、日本鳥類保護連盟で預かっています。

この話がたまたま連盟にあったのは、鳥獣保護実績発表大会の当日で、この会の審査にこられた田村活三会長に相談しました。そして、どうせやるなら、近くの愛鳥モデル校や研究会会員校に協力を求めて、巣箱を作ってもらい架設もやろうということになりました。

国会に巣箱を架けるなんて、ブラッといっってチョコッと架ければ良いと考えていましたが、実はこれが大変、連盟と国会と職員の2回の打ち合せと3回もの調査を行わなくてはなりません。打ち合せは、そのたびに10数人の関係者が集まり、たかが巣箱と思っていたのは大間違い。この間、資料や企画書、実施要領を持って国会に何回も足をはこびました。

また、実際に、計画が動きはじめたのは2月中旬で、早く巣箱を架けないと鳥たちの繁殖が始まってしまうことと、愛鳥モデル校の生徒に協力を求めるならば、学期末になる前にやらなければならないというタイムリミットがあっただけに、大忙しだったわけです。

そして、3月7日の月曜日、3時30分に国会前庭に、25個の巣箱をかけることになりました。当日は、世田谷区立船橋小学校、同八幡小学校、同二子玉川小学校、同赤堤小学校の4校の先生、児

童が40人余参加してくれることになりました。また、青梅市立第4小学校、五日市町立戸倉小学校からは、巣箱を提供してもらいました。

当日は、まだ寒い国会前庭に関係者が三々五々集まってまいりました。いくつかの学校が道に迷ったりしてハラハラする場面もありましたが、国会議員の先生方が12人も参加してくれた他、報道関係者を含めて100人近い参加者でにぎわいました。

今回架設した巣箱は、国会集辺で生息している巣箱に入る可能性のあるシジュウカラ、ムクドリ、スズメ用で、合計25個です。いずれもハシゴを使って、人の手のとどかない高い所に設置しなくてはならず、主に身軽な男の子が架設してくれました。国会議事堂が、バックに入る木でまずは報道カメラマン向きのポーズを八幡小学校のお友だちにとってもらいました。

この後、残りの巣箱を架設した後、またとない機会ですので憲政記念館の食堂で、懇談会を開きました。

この巣箱架けは、当日NHKニュース、翌日の朝日、毎日、サンケイ等の新聞でも取り上げられました。

また、巣箱のことを知った総理大臣からも首相官邸に巣箱を架けてほしいとの要請があった他、何人かの国会議員、公共施設からも希望があり、余裕のあるがざり連盟では、希望にそうよう協力していきます。

国会に巣箱なんて、そぐわない感じですがこんなところから、少しでも自然保護がすすみ、愛鳥教育がやりやすくなるならそれにこしたことはありません。

当日参加してくれた学校や巣箱を提供してくれたみなさんどうもありがとうございました。また関係者の方々ご苦労さまでした。誌上を借りてお礼申し上げます。

# 巣箱架け ー風景ー



さあ、巣箱を架けるぞ

議員の先生方も見守ります



みんなそろって、ハイ！ チーズ



井出一太郎代表のあいさつ

# 愛鳥講座II / 愛鳥活動の計画

愛鳥教育研究会常務理事

下田 澄子

## はじめに

今回は、愛知県の音羽町立音羽中学校の1972年の鳥獣保護実績書についてご紹介します。音羽中学校は、この年の「全国野鳥保護のつどい」で、環境庁長官賞を受賞しました。全国鳥獣保護実績発表大会もそうですが、発表された内容や受賞された資料が、発表や表彰式の終了と同時に過去のものとなり、そこに出席した人だけにそれぞれの形で受けとめられ、活用されることが少ないのではないかと思います。愛鳥活動を推進することにつねづねご尽力いただいている多くの現場の方々に少しでもご参考になればと思い、今までの受賞校の資料の中から、ご紹介していきたいと思えます。なお本稿を著すにあたっては音羽中学校の山本勝先生に、ご承認をお願いいたしましたところ、ご快諾をいただきました。誌上を借りて厚くお礼申し上げます。

## 愛知県宝飯郡音羽町立音羽中学校 1972 鳥獣保護実績報告書(抜粋)

### I 規約

- 1、名称 音羽中学校野鳥愛護会
- 2、目的 この会は郷土を愛し、野鳥愛護ならびに自然保護活動を進め、その輪を全町や全国さらに国際的なものとして広めるとともに生徒の情操を高めることを目的とする。
- 3、事業 この会は目的達成のため次の諸事業を行なう。
  - (1) 巣箱 給餌台の製作や設置
  - (2) 生態観察の活動
  - (3) 巣箱の補修、管理の仕方
  - (4) 愛鳥思想を高める諸活動
    - ア 講話
    - イ 展示会
    - ウ 意見発表会
    - エ 作文、習字、ポスター等の製作、掲示
  - (5) 各種コンクールへの参加、および諸団体

体との資料、作品の交換

- (6) その他、野鳥愛護に関する一切の事業
- 4、組織 この会は、本校の全生徒、職員をもって組織する  
音中野鳥委員会—委員会—部落会  
(生徒会)—(通学団長会)—(通学団会)
- 5、指導体制  
全職員が、生徒の自主的な活動を支え、有機的なつながりの中で、全校体制、全町体制をもって指導にあたる

### II 指導内容の概要

#### 1、巣箱のかけ方の手引

##### (1) 巣箱をかける場所

- ア お宮の森など……ムクドリ、フクロウ、アオバズク
- イ 畑、野原を囲む林……ムクドリ、シジュウカラ
- ウ 山に続く松林、雑木林……シジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、アカゲラなど

##### (2) 巣箱はどのようにとりつけるか

- ア 枝の少ない幹のものを選ぶこと(へび、ネズミ等の外敵から守る)
- イ かけようとする巣箱の出入口の方向  
附近に外の木がなく、小鳥が飛ぶのに便利なこと
- ウ 巣箱を理想的にかけた時、出入口が上向きにならないこと
- エ 取りつけの高さの標準  
シジュウカラ、ヤマガラなど……  
……3m前後  
ムクドリ、コムクドリ……  
……4~5mぐらい  
キツツキ類……4~10mぐらい  
オシドリ、アオバズク、フクロウ……  
……5~10mぐらい  
\* かける木の下が草むらになって

いる時は、草の上から高さを測ってきめる

オ 出入口の方向

北東または南（西向きは明るいからいけない）前方にうつむきかげんにかけて（雨水、明るさを防ぐ）

カ 木に取りつける時の注意

しゅろなわでしっかり固定する。幹にめりこまないように、杉皮をまいて、その上に結びつけるのがよい

(3) 巣箱取り付けの時期

秋から冬、春になってからでもよい。（鳥によって営巣の時期がちがうから営巣時間を研究すること）

なお巣箱取り付けに当たり、巣箱の附近に川や池があり、小鳥が水に不自由しない所を選ばなければならない。もしない場合は、附近に小さな水たまり（たるなどをうめる）を作ってやる必要がある。また、巣箱の附近に実のなる木（ツルウメモドキ、ヒサカキ、ガマズミなど）のある所を選ぶ

2 観察と手入れの手引き

(1) 観察研究問題の選び方

ア 利用した鳥

イ 巣材を運び始める前のようす

ウ 巣材を運び始めた月日と終わった月日

エ 巣材を運んでいるようす

オ めす、おすのどちらが巣を作るか

カ 産卵の日時、個数

キ 卵のようす

ク 卵を温めるようす

ケ ひなのかえった月日

コ ひなのかえるようす

サ 親鳥が餌を運ぶようす

シ 親鳥が餌を運ぶ回数

ス 運ぶ餌の種類

セ ひなにかえってから巣立ちまでの日数

ソ かえらない卵数

タ 巣の内径、外径、高さ（巣材の厚味）

巣の材料

※以上は、問題設定の例であり、この他、研究者自ら選ぶことが必要

(2) 観察上の注意

ア 調査の時、小鳥を驚かささないこと。産卵期の観察は特に注意、しかし野鳥の驚くのを心配して、観察を怠ってはならない。観察回数は1日1回位

イ クモ、ハチ、ネズミ、ヘビなどが入ると、鳥は利用しないから、手入れをする。営巣期に入って、1～2月後も利用しなければかけかえること

ウ 観察研究は根気よく、観察記録はありのまま

3 繁殖期を中心とする野鳥研究家の観察すべき要点

(1) 渡来

ア 繁殖地への渡来、繁殖の時期。気温、気象

イ 渡来の状態

(ア) 単独か、群れでくるか

(イ) 雌雄の一方が先にくるかどうか

ウ 繁殖行為の始まり

(ア) 一雌一雄か、一雄多雌か

(イ) さえずり、およびディスプレイ

(2) 営巣

ア 営巣場所

(ア) 地上または樹上（木の種類、高さ、環境）

(イ) ある面積内に発見される巣の数、または巣と巣の距離

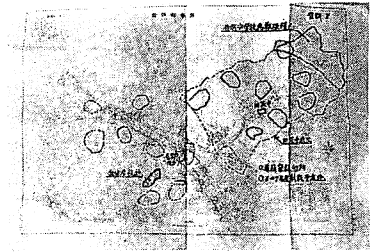
(ウ) 巣の位置および日光、方向、その他の関係

イ 営巣開始時期

ウ 営巣に従う雌雄の別

エ 巣を作る材料と構成法（つくり方）

音羽町全図



- オ 巣の測定と形状 (かたち)
- カ 巣を作るのに要した日数
- キ 営巣完了と産卵との関係
- (3) 産卵
  - ア 産卵
    - (ア) 産卵の間隔時刻と気象の関係
    - (イ) 卵の形、長さ、幅、重量
    - (ウ) 卵の色、卵の数
- (4) 抱卵
  - ア 抱卵
    - (ア) 抱卵開始の時期
    - (イ) 抱卵に従う雌雄の別とその時間分担
    - (ウ) 抱卵中の親鳥の動作
    - (エ) ふ化に要する日数と気象との関係
    - (オ) 抱卵中の親鳥の体温、卵の温度
    - (カ) ふ化の状態、ふ化に要する時間、時刻
    - (キ) ふ化率、ふ化しなかった卵の運命
    - (ク) 卵のからの処置
- (5) 育すう (ひなの育て方)
  - ア 抱卵
    - (ア) 育すうに従う雌雄の別
    - (イ) 親鳥の餌をとってくる区域
    - (ウ) 餌を与える回数、時間、方法
    - (エ) 餌の種類、量
    - (オ) 巣の清潔さの保ち方
    - (カ) ふ化の数と巣立ちの数
    - (キ) ひなの羽毛、形
    - (ク) ひなの能力 (力) 知能、習性
    - (ケ) ひなの発育状況 (成長)
    - (コ) 巣立ちに要する日数と気象との関係
    - (カ) 巣立ちのありさまと巣立ち後の育すうのようす
    - (シ) ひなの独立後の行動
    - (ス) ひなを保護するための親鳥の行動
  - イ 繁殖の回数
    - (ア) 第2回の繁殖は、同じ巣同じ場所で行うか

- (イ) 第2回目の繁殖は同じ雌雄で行うかどうか
- ウ 繁殖の終わり
  - (ア) 繁殖期を去る時期および状態
  - (イ) ひなの去るようす
- (6) その他
  - ア 年々同じ地点または同じ巣を利用するか
  - イ 年々同じ親が同じ地方に帰ってくるか
    - ※ここでまとめたことからは、野鳥の観察の仕方、その記録のとり方の手引きです。これを参考にして、研究計画をたて、りっぱな研究を進めましょう。なお実際に研究を進めていくと、「なぜだろう」と考えられる新しい問題を発見できるでしょう。そうしたことを見落とさないようにしていくことも大切なことです。

#### 音羽中の指導の手引きから考えられること。

自然現象に対して、児童生徒が自ら疑問や問題を持ち、その解決のために活動し、自分自身の体験を通して、その理由づけができるようになるという筋道が、自然科学の学習の望ましいあり方であると思います。しかしこのような一連の学習活動が成立するためには、非常に工夫された学習環境の設定が必要です。

目標に照らして、その提供されている自然の条件を、教師がどうとらえ、どのように解釈し、その学習内容について、どれほどの見通しを、あらかじめ持っているかが、児童生徒の活動の豊かさやひろがりや保障する鍵となっていくのではと考えます。

ところが往々にして、特に教科書にその内容がのせられていない活動については、児童生徒の主體的な活動の重視ということで「さあ皆でいっしょになって協力してやりましょう」「よくみてごらんなさい。何か発見できるでしょう」「どんなこと



でもいいのです。何でもみつけたことを記録しましょう」というような漠然とした指示だけになりがちです。野外観察になれていて、児童生徒の自然に対する見方や考え方がきたえられている場合には、このような形でその成果が期待できるかとも思われますが、そうでない場合かなり無理なことになるでしょう。

クラブ活動等で愛鳥活動を設定してしばらくすると、「やることが余りない」「毎回同じでつまらない」「勝手なことをして何となく遊んでしまう」など、学校の教育活動として、物足らない、価値が低いものになりそうだと、聞くことがありましたが、この辺に事情があるのではないのでしょうか。

しかし、あまりにこの計画そのものに固執して考えてばかりいますと、そうでなくても多忙な現場では、愛鳥活動のような特色ある活動を取り入れることにふみ切れない場合もでてきます。したがって他校の実践を参考にして、身近な、実現可能な活動を、目標を明確にして、あまり範囲を広げないで、できる限り活動や観察の観点をはっきりさせて、児童生徒と共に行動してみてもいいと思います。

そしてこの音羽中学校の、野鳥愛護会の規約や巣箱のかけ方の手引きや、繁殖期を中心とする観察の要点は、多くの示唆をもたらしてくれるものと思います。

活動にあたっての要点や、観察の観点などについては、いつも話し合われる内容で、お互いにわかっていることのようなのですが、なかなかこのようにまとめて、明確に提示される例が少ないようです。

これは、このことは言い過ぎであるとか、この点は言い足りないとか、いろいろと論議が出やすい個々の問題を持っているということがあります。また地域によって違う結果の出ている観察内容があることや、例えば音羽中の繁殖期を中心とする観察の要点の中の、産卵の項で、卵の重量をはかるといった、研究者が許可を得て実施しなければ

ならないことなど説明不足な点が出てきてしまったりなど、文章化することには、いろいろむずかしさをともなう面があります。

しかしそうであるからなおさら、お互いに見解を明確にして、それによって調査を一段と深めたり専門家の指導を受けるなど、あいまいな事柄を一つ一つ消し去る努力が必要と思います。

また特に愛鳥活動について、学校全体の人に理解を深めていくという面で、この学校のようにその実施される内容が明確になっていれば、野鳥について、どうもとりつきにくい、なじめないと感じている人たちにも、その理解が得やすく、協力を得ることも可能になってくるのではないのでしょうか。

自然を緻密に観察することによって、自然のしくみのとても人間の知恵の及ばない巧みな様相に出会います。また愛鳥活動では特にか弱い野鳥の、自然の中でのきびしい生き方にいやでもふれることとなります。教師が何も言わなくても、児童生徒は、自然の中からそれらを見取り、学び、考えるようになるでしょう。その自ら感得した自然から学び得たものこそ、豊かな情操を培うものとなるものと信じます。手をたずさえてこの活動の充実をめざし研究をすすめてまいりましょう。

# 愛鳥講座／資料編

## 愛鳥活動プログラム実践例

児童が作ったカレンダー  
(戸倉小)



### はじめに

愛鳥活動をいざはじめようとした時、何からはじめていいかわからないといったことがまず第一の壁となります。また何年続けた活動も、いつかこれでいいのだろうかという疑問がおきるのは当然です。

そんな時、他の学校でどのような活動をしているか、わかると多少は安心するものです。といったわけで、ここでは実際に使用された愛鳥活動のプログラムをご紹介します。まず、五日市町立戸倉小学校は、基本方針の例文と6月の学年別の活動計画、そして世田谷区立船橋小学校の一年間の学年別の活動計画です。戸倉小学校は自然の多いところ、船橋小学校は都会で活動しています。

### (例) 戸倉小学校の愛鳥教育活動

#### 1 目標

本校の愛鳥活動は昭和42年東京都より愛鳥モデル校の指定を受けて以来続けられている。

それは、教育目標「明るく思いやりのある子」の具現化の一場面として位置づけられており、活動内容としては大きく、保護活動と観察学習がある。

以下、それぞれのねらいを述べる。

#### (1) 保護活動

冬期の給餌活動、実のなる木の植樹、巣箱の架設等を行うことにより、野鳥を直接、間接に保護する態度を養う。

#### (2) 観察学習

野鳥の様々な生態を観察し、記録し、分析することによって科学的な見方、考え方、扱い方ができるようにする。

なお、これらの活動は、図工科(巣箱の製作、えさ台の製作、愛鳥カレンダーの製作等)、理科(各種の観察活動)、算数科(資料の整理)、国語科(文をつくる、話す、発表する)、道徳、等と密接な関係をもっており、総合的に指導される。

(3) 学年別の目標(主として「はばたき」の時間を中心として)

- 1 学年：身近な野鳥に接して、名まえや特徴を覚え、親しむようにさせる。
- 2 学年：身近な野鳥に接して、飛び方、歩き方、えさや水の飲み方などの生活のし方を見とり、親しむようにさせる。
- 3 学年：身近な野鳥に接して、野鳥に親しむとともに、それらが他の生物や大きく季節と関係していることを気づかせる。
- 4 学年：シジュウカラ(ツバメ)などの観察しやすい野鳥のようすを継続して調べ、成長には段階があること、生命は連続していることに気づかせる。
- 5、6 学年：野鳥は環境の影響を受けて生活していることを理解させる。

野鳥は他の生物と互いに影響し合って成長したり、繁殖したりしていることを理解させ、生物と環境との相互関係について関心を深めさせる。

自然保護の考え方を以上のことから深めさせる。

#### 2 愛鳥活動計画

「愛鳥教育」創刊号に紹介したものを、毎年改訂しながら進めている。57年度の6月の内容をその1例として示す。

#### 3 野鳥保護委員会の活動

- (1) 研究活動の推進
- (2) 巣箱の架設、回収、まとめ
- (3) 野鳥のえさづくり呼びかけ、えさ集め
- (4) 野鳥誘致園の清掃、管理(毎月)
- (5) 探鳥会の実施(毎週金曜日)
- (6) 愛鳥週間行事の推進
- (7) 観察カードの配布、回収、集計
- (8) 野鳥コーナーの整理(毎月)
- (9) 愛鳥だよりの発行(毎月)

## はばたき 6月の計画——(6/12~6/26) 3回(通算8)

項目 学年	ねらい	演習活動	留意点	資料・その他
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な野鳥を見て、名前を覚え、親しませる。</li> </ul>	12月 学校のまわりを歩き、 19日 4、5月の鳥に、オナガ、カラスを加えてみる。  26日 学校のまわりを歩き、鳥の名前を見ながら、「大きさ」に目を向け親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4、5月の鳥の絵を掲示しておく。6月のオナガ、カラスの絵、スライドを用意しておく。</li> <li>大きさを見る時は基準の鳥をわからせ、それと比べさせる。(ズングリ、スマートなどもふれる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライド、絵、それまでに書いた観察カード。</li> <li>→スズメより………</li> <li>ヒヨドリより………</li> <li>キジバトより………</li> <li>カラスより………</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のまわりを歩き、鳥の飛び方、歩き方などを確かめる。</li> <li>鳴き方を覚える。</li> <li>大きさを見分ける方法を理解させる。</li> </ul>	12月 学校のまわりを歩きながら、4、5月で学習した方法で鳥を見、深める。鳴き方を自分なりに聞きなす。  26日 1年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>“聞きなし”→ホトトギス トッキョキョカキョク、のように分かりやすく人の言葉で表わしたもの。どんなものでも可。判断の手がかりを作ること。</li> <li>1年に同じ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛鳥テープを少しずつ選んで聞かせたい。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のまわりの探鳥会をする。年間を通してどのような野鳥が見られるか、季節・植物などのかかわりでとらえさせる。</li> </ul>	12~26日 探鳥会をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の記録や個人の記録を積み上げるようにする。</li> <li>掲示物を工夫し、意欲をもたせるように留意する。</li> <li>植物、気温にも目を向けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の図鑑を作ろう、のはたらきかけをする。</li> <li>夏鳥について表を留意する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>シジュウカラ、ツバメなどの身近な野鳥の営巣について調べ、個体の変化のようすを理解させる。</li> </ul>	12日 身のまわりで観察したものをもちよらせ、絵や表にしながら、巣作り一卵一ヒナ一親の過程、それに伴う巣材、親の活動などいろいろ明らかにする。 19日 探鳥会をする(身近な鳥の名前を覚える。 26日 夏鳥について知る。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年に同じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年に同じ。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸倉地区のツバメの巣の調査をし、ツバメの巣がどのような条件の所にあるか、理解させる。</li> </ul>	12月 各地区ごとに調査し、 26日 図や表に表わす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度との比較をする。</li> <li>時間を2単位ずつとって活動することも可。</li> <li>子どもが地区ごとにやる場合は交通に気をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和56年度の調査資料(スライド、図)。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヨドリ、スズメの数を調べ、環境とのかかわり方を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西戸倉地区を全員で回って数を調べる。(12、19、26日)</li> <li>コースは3コースで3班に分かれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁量時間を活用する。</li> <li>19日は星竹コース、盆堀地区は子どもに調べさせ、26日に集計し、記録に残す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ方のプリント。</li> <li>記録用紙。</li> </ul>

戸倉小学校は、東京の多摩の五日市にある学校で、生徒数113人の学校です。愛鳥活動の歴史は古く、まわりの豊かな自然環境を生かした教育は、数々の表彰を受けています。ここに紹介した表は、毎月ある行動予定のほんの一部です。

## 東京都世田谷区立船橋小学校 愛鳥タイム年間計画

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 餌台に餌をあげる</li> <li>◦ ぬり絵（スズメ）をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ヒマワリの種子をうえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ツバメの研究の計画をたてる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱観察の計画をたてる</li> <li>◦ ポスター作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会（千歳台方面の畑）</li> <li>◦ ポスター作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自由研究の計画をたてる</li> <li>◦ ポスター作り</li> </ul>
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱の観察 巣に出入りする鳥のようすを見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会（ツバメ） 学区のツバメの巣を見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ツバメの巣の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱（ムクドリ）の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会（千歳台方面の畑）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 学校園、学年園、野鳥園の整備をする。</li> </ul>
6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会 学校のまわり、鳥の大きさに注意してみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱の観察 巣に出入りする鳥（餌、ふん運び）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ツバメの巣の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱の調査記録の整理をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 愛鳥スライドを見る（高学年用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 愛鳥映画をみる</li> </ul>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文 「鳥さんとお話ししよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文 「鳥の気持ちになって」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ツバメの観察記録の整理をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱の調査記録の整理をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自由研究の計画をたてる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自由研究の記録の整理と夏休みの計画をたてる</li> </ul>
9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 愛鳥スライドを見る（低学年用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ヒマワリの種子集め 鳥の餌になるものを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ツバメの観察記録を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱の観察記録を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自由研究発表（国語の時間でも扱う）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自由研究発表（国語の時間でも扱う）</li> </ul>
10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ぬり絵（スズメ、ムクドリ）をする 鳥の大きさを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ぬり絵（キジバト、ツバメ）をする 鳥の飛び方を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ぬり絵（ヒヨドリ、ハシブトガラ）をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ぬり絵（オナガ、シジュウカラ、カワラヒワ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ぬり絵（ツグミ、メジロ、モズ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 清掃活動（芦花恒春園）</li> </ul>
11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 餌やりの計画をたてる 給餌のしかた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 餌やりの計画をたてる 自分の家で餌やりをする 餌台の形を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会 季節によって見られる鳥の違いを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 餌台作りの計画をたてる グループ作り、餌台の形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱作りの計画をたてる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 学校園、学年園、野鳥園の整備をする</li> </ul>
12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会 餌台にくる鳥 愛鳥カードを書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 餌台作り（家庭用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会 季節によって見られる鳥の違いを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 餌台作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 記念植樹</li> <li>◦ カレンダー作りの計画をたてる</li> </ul>
1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会 学校のまわり 愛鳥カードを書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会 餌台にくる鳥をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 探鳥会 芦花恒春園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 餌台作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 巣箱かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ カレンダー作り（切り紙版画）</li> </ul>
2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文（愛鳥カルタ作り）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文（言葉）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文（創作物語）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ カレンダー作り</li> </ul>
3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文（同上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文（同上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 作文（同上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ カレンダー作り</li> </ul>

船橋小学校は、世田谷の環8沿いにある学級数22、児童数906人の学校です。まわりは住宅街で身近な鳥たちをあいてに活動をしています。本表の愛鳥タイムは月1～2回あるゆとりの時間に実施しているものです。

# 愛鳥活動のヒント・1

(財)山階鳥類研究所資料室長

柴田敏隆

## 探鳥は早朝

一般に探鳥会が朝早く行われるのには、相応の理由がある。多くの鳥は、かなりはっきりした昼行性（昼間活動する性質）なので、朝は、日の出前の東天が白むころから活動を始める。人里附近ではカラスが、森林地帯ではヒガラがとりわけ早起きで、日の出前40分位にはすでに目醒めの第一声を発する。海辺では、ウミネコやウミウが早く、これも、空が鈍色になるころから飛びまわるようになる。

由井正敏さんという鳥の学者が、野鳥のカウントをするとき、一日のどの時間帯にやったら、単位時間内に一番たくさん数えられるかを、極めてくわしく調査した結果も、従来経験的に言われていた、日の出前後の2時間位が一番良かった、という結果が出ている。

したがって、日の出前1時間位には現地に到達して、夜の鳥と昼の鳥の交替を観察しながらその日の探鳥を始めるのが一番良いことになる。しかも、早朝は爽やかで、人間の側の心理的効果も極めて高い。探鳥の終了も、およそ日の出後2時間位に終わるとよからう。

ウェイダー（Wader）と呼ばれる干潟の鳥たち、すなわち、シギ・チドリ類は飛来が日の出よりも、干潟が露出する方に、大きく影響されるので、その時刻をみはからうとよい。

潮汐表（潮時表一なければ理科年表からその土地の干満時刻を計算する）をみて、大潮の最大干潮時を読む。その少し前に現地について、干潮とともに干潟ができて、それにしたがって鳥が飛来するのを見るのも良いが、むしろ、潮が満ちてきて、沖合から岸辺に鳥たちが追いもどされてくるのを、岸にじっと座ったままで観察するのが、ヴェテランのやり方である。最大干潮は、大体太陽の南中時に合うので、ウェイダーの観察だけは、早朝からねばけまなこをこすりながらやらないでもよい。

## 望遠鏡は感動も拡大

望遠鏡は、双眼鏡より高倍率で、遠くのものに近くに引きよせ、つまり大きくはっきり見るのに役立つが、初心者にとっては、ごちゃごちゃした環境要素の中から、目的とする対象を明確にとらえて、視野の中に限定する、当然ながら意識の中にクローズアップして位置づける大切な役割がある。

それとともに、今ひとつ大切なことは、感動も増幅する、ということである。視野いっぱいにとらえた小鳥が、胸を張って一生懸命に唄っているのを目の当たりにした初心者は、深い感銘を受け、美しい、可愛い、すばらしいといった感情に、心を大きくゆさぶられることであろう。このことが、鳥が好きになり、自然を愛し、ひいては、これに学びつつ、自然保護を決意する重要なきっかけとなるのである。

だから、リーダーは、望遠鏡の用い方に習熟していなければならない。

三脚の足は、アイピースの下が空くようにセットしなければいけない。手前に足が一本出ていると、初心者ほど、この足によくぶつかり、そのたび目標は、一瞬にして視野から外れてしまうからである。

また、相手が子供の場合、その背丈にあわせて高さを加減する必要がある。背が届かなくて、無理するから、目標は、視野の下方へ消え去ってしまうのである。

ピントのあわせ方が、専用ダイヤル式か、アイピースのヘリコイド式か、鏡胴のヘリコイド式かも教示してやろう。案外なことにパン棒の使い方を知らない人が少なくない。私はかつて固く固定したパン棒をもぎとられてしまったことがあった。

初心者には、移動目標を無理して追うより、梢で鳴くオオルリのような動かない目標をゆっくり、存分に見せる方が大切である。

# つばめの子

今井小学校 2年1組

ほうせん たまえ

たいふうの日、おとうとのひではるが、  
「すずめつかまえたよ」

と、いって、うれしそうに虫とりあみの中に小鳥を入れて帰ってきました。おとうさんが虫とりあみから出して

「この鳥は、すずめじゃなくてつばめだよ」

と、いって、つばめを見ていました。すると、おとうさんの手に赤い小さな虫がたくさんついていました。なんだろうと見ていました。それは、ダニでした。

つばめは、雨にぬれてふるえていました。おとうさんが、

「ひではる、はこをもってこい」

と、いいました。

「なんのはこ」

と、ひではるがいったので、わたしは、

「ふねにつかう道ぐのはこじゃないの」

と、いうと

「わからない」

と、ひではるがいきました。

「ねえちゃんのいうとおりだよ」

と、おとうさんがいったので、ひではるが2かいからカメラのあきばこをもってきました。おとうさんが、はこの中にあたらしいぞうきんをしいて、つばめをそっと入れ、つばめの体をまいてあげました。それでも、つばめはふるえていました。

きんぎょのえさを、おゆでやわらかくしてわりばしをカッターでうすくした所にえさをのせ、つばめの口の中に入れてやりました。おなかがいっぱいになったみたいに、おなかがふくれていました。おひるに、おとうさんがラーメンをつくったので、そのラーメンをこざらに入れてさましてから、こまかくきってわりばしにのせてあげました。

しばらくして、はねがかわいたので、ひではるが尾をひとさしゆびでたたいたら、ちゃダンスの上までとんでいきました。わたしがとくいの口ぶえをふいたらとんで、わたしの頭の上にとまって「ピー、ピー」

と、なきました。かわいいなあと思ったのでそつとなでてやりました。だんだんつばめの子がすきになってきました。わたしとひではるが、つばめを手やかたにのせているところを、おとうさんがカメラとテレビでとってくれました。

夜、おかあさんが帰ってきたとき、ひではるが、「おかあさん、下においてあるはこをすてないで」

と、いいました。わたしは、ほんとにつばめをすきになってしまいました。しんばいで夜もねむれないかんじでした。それなのに、おとうさんは、よくほつといてテレビを見ていられるなあと思いました。

そのつぎの日、つばめを手のにせたり、かたにのせたり、せなかをなでたりしてあげると、目をつぶってコックリ、コックリしていました。そのときおとうさんが、

「はやくピーコ（インコ）にえさをやりなさい」

と、いったけど、わたしは 時間ぐらいつばめとあそんでいました。それから、ピーコにえさをやって、またつばめとあそびました。

雨がやんでから、つばめが、

「ピー、ピー」

と、鳴きだしたので、どうしたかと思まわしたら、親つばめがとんできたので、おどろきました。それで、ひではるに、

「つばめをにがしていい」

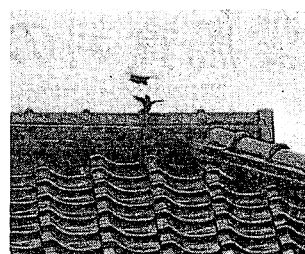
と、いったら、ひではるが

「うん、いいよ」

と、いったから、まどをあけてしきいの上におきました。つばめはぜんぜんとびません。2回目もとばなくて、3回目をやろうとしたら、おかあさんが赤虫をもって帰ってきました。

赤虫をピンセットで、つばめの口のそばまでやると、赤虫を食べようと口を大きくあけたので、口の中に入れてあげたらゴックンとのみこんで、たくさん食べました。そして、また、しきいの上ののせてあげました。親つばめが、

「ピー、ピー」



と、鳴いて円をつくっていました。

しばらくすると、親つばめのあとにつづいてとんでいって、ふけさんの家のとよにとまりました。親つばめは、とよのまわりを何回も何回もまわって鳴いていました。わたしは、へやのまどから、だいじょうぶかなあと思いつつ見ていました。ずうっと見ているうちに、わたしは大きな声でなきだしてしまいました。とよの所は、雨がふるとながされて、おちてしんじょうと思ったからです。

それから何回も、何回も  
「おかあさん、やっぱりあのつばめとって、とって」

と、いいました。おかあさんが、  
「くらくらなくても、まだいたらとってあげる」

と、いいました。わたしが、  
「さっきから、なにも食べていないからしんじょう」

と、いうと、おかあさんは、  
「親つばめが、近くにいるからだいじょうぶ」

と、いいました。つばめが、とよの中に入ってしまったので、

「雨がふればしんじょうから、やっぱりとって」

と、いったら、おかあさんが、  
「きょうは、雨がふらないからだいじょうぶ」

と、いってとってくれませんでした。つばめは、おひるごろからずうっと、とよの中にいました。わたしは、しんばいでしんばいで、たまりませんでした。おとうさんが小鳥のずかんをもってきて、「つばめはわたり鳥で、ピーコとはちがって、家の中でかっちはいけないんだよ」

と、おしえてくれました。

つぎの日のあさ、雨がふっていました。

「つばめがいるよ」

と、いって、おかあさんがおこしてくれました。下にいって見たら、びっしょりぬれているつばめが、はこの中にいました。わたしはうれしくて、にこっとわらいました。はねをかわかして、2かいへつれていって、まどのしきいのところにおい

たら、また、親つばめがきて、くるくる回っていました。おとうさんに、

「まどをあけてもいい」

と、いったら、おとうさんが、

「しゃしんをとるからまって」

と、いって、カメラをもってきました。そして、「おねえちゃんが、にがしてもいいならまどをあけなさい」

と、いいました。わたしは、雨がふっていたが、親つばめがかわいそうなので、まどをあけてやりました。親つばめが、

「ピー、ピー」

と、鳴くと、子つばめはとんでいきました。そして、ふけさんの家の2かいのやねのはじにとまりました。おとうさんが、大きなレンズをつけたカメラで何まいもうつしました。おとうさんが、「おねえちゃん、見てもいいよ」

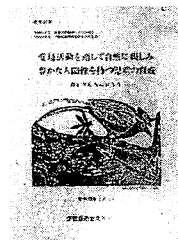
と、いったので、カメラをのぞいて見ると、親つばめが子つばめにえさをやっていました。

いつのまにか、親つばめといっしょに、どこかへとんでいってしまいました。わたしは、子つばめがとんでいって、よかったと思いました。

## 原稿募集

ここでは、今井小学校2年・宝泉珠恵さんの作品を紹介しました。まよい込んだツバメの子をめぐって宝泉家で対応におられるようすが珠恵さんの目をとおして生々と表現されているので参考になればと思い掲載いたしました。また、本稿は投稿されたもので、今後とも本誌においては、子供たちの作品（作文、絵、立体など）を紹介し、アイデアと情報の普及につとめたいと考えております。また、先生方が学校で立てた事業計画、配布した手づくりパンフなどもお送りいただければ機会をみつけて紹介いたします。特に応募規定をもうけませんので、お気軽に原稿をお送りいただければ幸いです。

# 愛鳥資料の紹介



## 自然観察のし方II

青柳 昌宏 著

ニューサイエンス社刊

この本では、「対象とする地域を原則として都市および近郊、農村漁村に設定している。ごく普通の自然の中でできる自然観察を選んで見たつもり……」と冒頭に書かれています。また本の使い方として、(1) 自分で工夫して、(2) 自分で調べて、(3) 自然観察のテーマを1頁1テーマ100あげて、どこからでもやってみてと呼びかけています。

そして、楽しい自然かんさつ、風景学入門、地学観測所、磯と川辺のかんさつ学入門、緑のたんけん学入門、バードウォッチング入門、小さい生き物の世界、人と自然のあり方の研究、の項目にまとめられていますが、とても広い範囲のことが比較的理解しやすい表現で、読者にその観点を示しています。小学校から、指導にあられる方々まで、読みようで、また目的によって、いろいろ利用できると思います。本書は筆者の青柳先生から当会にプレゼントしていただきました。

## 研究紀要 神奈川県伊勢原市立高部屋小学校

野鳥を愛しその生命を護り自然との心の通うかわり合いを持ち、自然と共に生きる心構えを培うことは、人間の生命を護り人間性豊かな心情を陶冶することになり、その心情や行動がかけがえない自然と人間生活の調和をもたらすというすじ道を本校の「愛鳥教育」の基本においてあると巻頭に書かれています。

そして教職員が研修に心がけ、それを児童に還元し、地域、PTAの協力を得ながら、長期にわたって普段の継続実践の活動を通して深める……とあります。

ゆりの時間、特活の時間が主で、国語、図工、理科、社会、音楽、体育、道徳に関連づけられた教育課程の位置づけがあり、月別、学年別、教職研修の年間計画表がつくられています。また「目標にむかって」という項目で、各学年の子どもの野鳥に対する姿勢の実態をもとに、ねらいを明確にすることに努力がはられています。

## はじめに

集まりたくも集まれない、お互いの歩みを知らせ合わなければならない、という二つの問題を当初からかかえて、運営についていろいろ悩んでいますが、三年目を終わろうとしている今、ようやくその道すじが、少し見えてきたように思われます。今回ここにご紹介する文献は、当研究会に送られてきたものですが、「これをこのように誌上でご紹介し、必要とあらば貸し出しができるようにして、お互いに活用し合いさらに愛鳥教育の充実を期待していく」ということを願ったわけです。

ささやかな試みですが、一つの方法であろうと思います。

ただご紹介に当たって十分意がつくせないということについては、当方の微力と誌面の関係ですが、研究物をご提出の方に、特におわびいたします。よろしくご諒承下さい。また今後とも、校内での資料をはじめ単行本など発行されましたらお送り下さい。ご紹介いたします。

## 創立10周年記念誌 沖縄県八重山野鳥の会

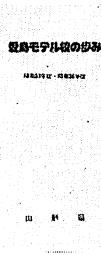
10年前、野良仕事をしている人の近くで鳥を見ることには「この忙しい時にのんびり鳥など見ている」といわれそうな雰囲気があった……。いま野鳥観察という趣味はようやく八重山でも市民権を得て……とあとがきに書かれています。

南国の豊かな自然を思わせる空と山とカムリワシの美しい表紙は、そのまま会員の方々のこの会によせる情熱を伝えています。

八重山地方の鳥類目録は、「日本鳥類目録第5版」をもとに、八重山野鳥の会会員等の観察記録や文献からの資料を追加して記載されたもので、11頁に渡り、56科、294種があげられています。

八重山の自然として、地質、気候、植物、陸生動物の説明があり、八重山の野鳥の項では、環境と鳥類の生態、戦前の資料、探鳥地案内等があり、私と野鳥、民話と方言など、八重山が身近に思える楽しさが感じられました(本書は会員の島村修さんからお送りいただきました)。





**根室の自然と教育** 根室自然教育研究会

根室自然教育研究会の創立10年記念号として特集されたもので、10数人の方々の論文、研究実績が掲載されています。

自然保護のことを単なる知識理解として児童生徒にわからせるのではなく、実際の地域の自然にたちむかわせて、具体的に肌でわからせねばならない……。自然保護というと、ありのままの自然をそのまま保存し続けるという考え方になるが現代に通用できない側面がある。人間生活……の接点では、自然と産業との調和をはからねばならない。有害な動植物は、自然のバランスの中でコントロールも必要となる……それをする人間の深い知恵を確かに育てる教育のあり方を求めるのがこの会の目的である…(要約)というような呼びかけで結成され会の、論文、実績が記載されているのです。また根室市の植物目録、根室市の夏鳥初認記録、知床横断道路鳥類調査の記録もあり、別冊で会誌総目録、寄贈文献目録もつくられています。

**愛鳥モデル校の歩み (S 53~56)** 山形県

愛鳥モデル校は、鳥獣保護思想の普及の一環として、小・中学校40校に1校の割合で指定、16校、4年間の各学校、独創の野鳥保護活動をこの冊子にまとめた……とはしがきに書かれています。

全国に愛鳥モデル校は、約900校ほどありますが、所属する県によって、いろいろな歩みになっています。とにかくこのように記録を県単位でまとめられ、その地域でのこの教育活動が、より確かなものに深められていくということは貴重なことと思われます。

特にこれから愛鳥活動をはじめようとする学校にとって、学校規模、地域の状況、活動内容など、いろいろ記載されているので、参考資料として大いに役立つことでしょう。

むろん、このようなまとめを、実践の上になされた各校が、その足跡として実績を確かめられ、さらに次の飛躍を求められるよき指針となられたことと思います。

**野鳥はともだち** 東京都世田谷区

世田谷区は、健康都市区民運動の一環として愛鳥運動を始めたとのこと。大都市の中でのこの方針を受けて、それを具体的な教育活動としてつくり上げられ、実践された愛鳥モデル校の記録の要約が記載されています。

世田谷区で最も多く見られる野鳥は、オナガ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ムクドリ、キジバトなどで、154種が見られたと書かれています。

自然観察はできないと考えられがちな都会の中で、身近にいる野鳥を見つけて、子どもたちに関心を持たせ、さらに教育活動として、学校がとり上げている点がすばらしいと思います。また、6つの愛鳥モデル校の、それぞれの歩みと、紹介された、子どもの作品からは、素朴なよろこびと、まじめな追究の姿を感じとることができます。

もっともっと、多くの都会で、忘れられている自然が、子どもたちによって発見され、子どもたちに豊かな人間性が培われるよう願っています。

**みどりと野鳥 「愛鳥作品コンクール」入選作品集**

朝日学生新聞社、日本児童ペンクラブ、日本鳥類保護連盟が、野鳥の愛護と、自然保護をテーマに、昭和57年5月10日から9月20日、しめきりまでの、3053編の応募作品の中から、選んだ入選作品をまとめたものです。

3053編の応募作品は、国内はもとより、韓国、インド、台湾、イギリス、デンマーク、ニュージーランド、チェコスロバキア、ベルギー、イスラエルなどからもよせられたとのこと。

愛鳥ということの意味について、深く考え「野鳥が野鳥らしく自分で生きていけるような自然を守ってあげることが大切」とまとめた小学校4年生、三年間精密にシジュウカラの観察をし考察を深めた5年生をはじめとして、純真な子ども達のとらえた、人と野鳥とのかかわり合いの姿は、読む人に言い知れない感動を与えます。(希望者は、朝日学生新聞社へ切手170円送るともらえます)

(下田澄子記)

## 不忍池カモ観察会報告

ポカポカと暖かく、まるで春が一足飛びにやってきたような1月30日(日)、上野不忍池で愛鳥教育研究会主催のカモ観察会が行われました。小田原市立山王小学校から児童と父兄45名、世田谷区立船橋小学校から児童2名も参加して、総勢64名と大盛況でした。

不忍池は大都會の中心部にあるにもかかわらず、カモの渡来地として、また全国でもまれな、カワウのコロニーがあるところとして、有名なところudur。当日も、オナガガモ、ホシハジロなどのカモ類やカワウの数の多さに、皆さん圧倒されていたようでした。

当日は、上野動物園飼育課の福田道雄さんより「不忍池のカモとカワウ」についてのお話がありました。スライド上映をまじえた楽しいお話でした。お話が終わった後、山王小学校の児童の1人は「ますますカモが、好きになっちゃった」と言っていました。この子のような子どもが1人でも多くふえるようにこれからもがんばりましょう。

### ○参加者

赤城敏子、林口末弘、下田澄子、松本千鶴子、

勝亦順子、小田原市立山王小学校児童および父兄(秋沢信幸、小林和幸、佐久間巨光、佐野政興、杉本哲也、杉山英樹、鈴木宏明、高橋宏康、常盤和宏、玉井孝、堤善之、常盤順二、野本達也、原田信彦、山田真史、石井佐知子、大森直美、小川信江、西郷雅美、杉本千恵、鈴木香識、瀬戸直美、野田智子、船島正恵、三上まり子、望月理花、湯川恵子、譲原千晶、渡辺香識、三上由里子、鈴木慎二、高橋俊彦、西郷剛史、原田みゆき、杉山正子、鈴木文江、渡辺芳子、鈴木勝代、西郷恵美子、高橋八重子、堤松子、杉本照江、秋沢和江)世田谷区立船橋小学校児童2名(小林晴美、三井英美)久保田ひとみ、山本ますみ、植田睦之、有吉龍一、藍原和子、北川恵子、三浦正雄・黎子、中原正之、今末正雄、

他連盟職員 松田、斉藤、宗形。

### ○確認された鳥

カイツブリ	ハシビロガモ	ハクセキレイ
カワウ	ホシハジロ	ヒヨドリ
ダイサギ	キンクロハジロ	シジュウカラ
マガモ	オジロワシ	スズメ
コガモ	キジバト	ムクドリ
ヒドリガモ	ドバト	ハシブトガラス
オナガガモ		

### 編集後記

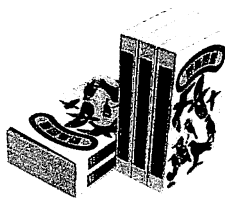
○実は、本誌の編集は去年の暮から手をつけていたのです。まだ日があると思っている内に3月、そして例の国会巣箱作戦があつて、年度内必着があやぶまれています。遅れましてすみません。先にあやまっておきます。○国会巣箱作戦は、まずは成功。マスコミから風見鶏は巣箱に入るのか、とかメジロ(地名から人名を表す)がくるのでは、などと書かれるのではと心配していたのです。子供たちが一生懸命架ける姿を見て、そういった揶揄はなくなりました。子供の魅力ですね。(m)○国会巣箱大作戦で、久しぶりに木に登ったら、翌日は、体のそこいら中が痛くて、もう、わやです。自分の運動不足と体力の衰えを感じました。(ムネ)

## “4年目の会費”のお願い

昭和55年、山階鳥類研究所で生声をあげた“愛鳥教育研究会”も、今年5月17日で満3歳を迎えました。その間にはいろいろなことがあり、教育に関していえば、決して明るいニュースばかりではありませんでした。愛鳥教育活動についても、まだまだその存在すら知らない人が多いのではないのでしょうか。私たちと会員の皆様、双方手を取りあって、愛鳥教育を普及させるためにがんばりましょう。

4月からは新年度になります。来たるべき4年目の会費も、お忘れなくご納入下さるようお願いいたします。会費は2,000円です。

# JAPBフィールド・ショップ



お申し込みは、(財)日本鳥類保護連盟まで  
切手、現金書留、郵便振替などをお願いします。

〒150 東京都渋谷区宇田川町37-10

渋谷レジデンシャルオフィス405

Tel 03-465-8601 振替 東京5-19214

商 品 名	定 価(円)	送料(円)
<b>・連盟</b>		
野鳥図鑑	2,200	250
野生鳥類の保護	1,500	250
美しい自然シリーズ・庭に小鳥を	300	170
// 野鳥を見に	300	170
// 自然の中で	300	170
自然の教室	2,200	300
ぬり絵	380	200
カモの見分け方	100	70
野鳥保護のしおり	90	70
バードビルタップ(ルリビタキ)	2,200	300
// (ハクセキレイ)	2,200	300
バードウォッチング入門	250	170
バッチ(ツバメ)	800	60
「私たちの自然」保存用ファイル	500	240
ワッペン(カイツブリ)	1,500	60
<b>・バードカービング</b>		
キット カワセミ(片面挽き)	1,700	350
キット カワセミ(両面挽き)	2,200	240
キット カワセミ(飛翔形)	3,200	240
キット モズ(片面挽き)	1,800	350
キット モズ(両面挽き)	2,300	350
キット カワラヒワ	1,500	240
キット トモエガモ	5,900	600
キット オシドリ	7,200	600
彩色セット	2,900	600
バードカービング(朝日ソノラマ)		
木彫りの鳥を作ろう	2,500	300
バードカービング(講談社)		
野鳥を彫る	2,500	300
◇	◇	◇
<b>・バードペインティングキット</b>		
(絵具付) マガモ	1,500	350
<b>・バードペインティングキット</b>		
(絵具付) オナガガモ	1,500	350
<b>・バードペインティングキット</b>		
(絵具付) カワセミ	2,000	350
セラミック・デコイ		
(完成品) カワセミ(大)	1,500	350
セラミック・デコイ		
(完成品) カワセミ(小)	1,000	240
<b>・サントリー</b>		
愛鳥絵ハガキセット (1)日本の鳥	130	70
// (2)四季の鳥	130	70
愛鳥エンビツセット	120	60
愛鳥ペーパーウェイト		
(1)ヤマセミ	1,300	350

商 品 名	定 価(円)	送料(円)
愛鳥ペーパーウェイト		
(2)シジウカラ	1,300	350
愛鳥レターセット《横野》	380	240
// 《縦野》	380	240
愛鳥びんせん《横野》	250	170
// 《縦野》	250	170
愛鳥シールセット	130	120
愛鳥タンブラーセット(2個)	500	600
愛鳥ソーサー	600	500
愛鳥カップ	600	500
愛鳥ゴブレット(3個)	1,500	600
カセットテープ「野鳥をききに」	1,000	240
愛鳥トランプ	1,000	240
ジグソーパズル		
「いきものの世界はたすけあい」	800	600
新聞広告縮刷版I集(S48.5~51.4)	500	350
新聞広告縮刷版II集(S51.5~53.4)	500	240
新聞広告縮刷版III集(S53.5~56.3)	500	350
愛鳥エプロン《フクロウ》	1,200	240
// 《キツツキ》	1,200	240
愛鳥トレーナー	M・4,000	
(カーキ・キツツキ)	12歳・3,600	350
	8歳・3,200	
愛鳥トレーナー	M・4,000	
(グレー・フクロウ)	12歳・3,600	350
	8歳・3,200	
愛鳥トレーナー	M・4,000	
(ホワイト・フクロウ)	12歳・3,600	350
	8歳・3,200	
愛鳥トレーナー	M・4,000	
(ブルー・キツツキ)	12歳・3,600	350
	8歳・3,200	
<b>・野鳥の会</b>		
山野の鳥	400	170
水辺の鳥	400	170
野鳥識別ハンドブック	2,200	300
バードウォッチング	850	200
フィールドガイド 日本の野鳥	3,200	300
フィールドガイド		
BIRDS OF JAPAN	2,900	300
山野の鳥(カード・カセット)	2,500	350
<b>・その他</b>		
(会員割引)		
BIRDS IN JAPAN	6,300(5,700)	送料 サービス
ペンギン野鳥案内図典(I)		
・森林・公園・庭園の鳥	1,650(1,500)	—
ペンギン野鳥案内図典(II)		
・湖・川・沼・畑の鳥	1,650(1,500)	—
ペンギン野鳥案内図典(III)		
・海・海岸の鳥	1,650(1,500)	—
コリンズ自然案内シリーズ		
野草(花)小図典	1,000(900)	—
コリンズ自然案内シリーズ		
野鳥小図典	1,000(900)	—
コリンズ自然案内シリーズ		
樹木小図典	1,000(900)	—
コリンズ自然案内シリーズ		
野生動物小図典	1,000(900)	—
コリンズ野鳥案内図典	4,700(4,000)	—
コリンズ世界の海鳥図典	4,200(3,800)	—
ハムリン野鳥図典(上製)	3,300(3,000)	—
ハムリン野鳥図典(並製)	2,200(2,000)	—
◇	◇	◇
鳥類生態学	13,500	—
東京の野鳥	1,800	250